

第3回研究会における主なトピック

第1部 名和田座長より発表

○ 「コミュニティ・プラットフォームの意義と担い手について」

- 自治会の加入率の地域差は、都市か地方というよりも、自治会で対応しなければいけない活動の必要度合いによるのではないか。
- 自治会の加入率の低下を考える際には、ライフスタイルの変化等も考慮していく必要があるのではないか。
- 自治会の基本的組織原理として、構成単位をどのように考えるべきか。「世帯」なのか、「個人」なのか。
- 現在自治会を運営している世代と若い世代の意識の差をどう考えていくか。
- 外国人や若い世代等、自治会との関係が希薄な層に対して、どのようなアクションをとる必要があるのか。
- コミュニティ・センター等、従来のコミュニティ政策は、どのように評価できるか。

第2部 事務局説明

○ 「今後の検討課題とスケジュール等について」

- 行政の地域コミュニティに対する支援と組織のあり方という論点については、国・都道府県・市町村という枠組みだけではなく、大都市・農村といったような地域の性格・特性に応じた検討が必要ではないか。
- 市民側のコミュニティ・ビジネスについても、「新しい公共空間」の絵に加えていく必要があるのではないか。
- 会社も地域貢献に果たしている役割は大きく、公共空間をつくる一員として考えるべきではないか。
- 新しいコミュニティ政策を論点として検討するのはもっともであるが、その中で、従来のコミュニティ政策を評価する際には、そのときどきの社会背景や状況についても考慮する必要があるのではないか。
- 個別の分野では、地域のコミュニティと地方公共団体による協働の事業や取り組みが出てきている。
- 地域コミュニティが自分でお金を払って、地域の活性化に取り組もうとしたときには、住民が協力的であり、いい結果が生まれているのではないか。